

2020年度 SDGs 年次活動報告書 (2020年2月1日～2021年1月31日)

# 20 SDGs 20 report

株式会社アーバンリサーチは国際社会の一員として積極的にSDGs(持続可能な開発目標)を支援します。



## Top Message



代表取締役社長 竹村 幸造

2020年は新型コロナウイルスの世界的感染拡大により、私たちを取り巻く環境は一変し、ファッション業界においても先行き不透明な状態を目の当たりする一年となりました。

しかしながら、時代が大きく変化し、あらゆることが従来のやり方では通用しなくなる一方で、新たなアイデアやこれまでにないチャレンジを生み出す良い機会ともなりました。

地球環境をはじめとする様々な社会問題が浮き彫りとなっている今、我が社がSDGsに基づき取り組んできた施策は、今後、各要素で企業責任をさらに強く意識した事業展開へと進化させます。皆様から必要とされる企業で在り続ける為にも、企業価値の向上に努め、よりサステナブルな社会の実現に貢献できる企業へと成長して参ります。

## index

---

**1. Hot Topic** (p.3~p.5)

**2. SDGs 基本方針「3C」紹介** (p.6~p.8)

**3. 3Cの主な活動事例** (p.9~p.15)

**4. 2020年度の活動** (p.16~p.23)

**5. 社内の動き** (p.24~p.28)



## Hot Topic

**20**  
SDGs  
**20**  
report



## 1. Hot Topic



【共創チャレンジ】  
廃棄衣料を蘇らせる  
「commpost」



【共創パートナー】  
コラボレーション &  
プロデュースプロジェクト



## 2025年大阪・関西万博に向けた取り組み「TEAM EXPO 2025」 プログラム登録について(2021/1)

2025年大阪・関西万博に向けた取り組み「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創チャレンジ(以下「共創チャレンジ」)および「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナー(以下「共創パートナー」)に2021年1月31日付で登録されました。

共創チャレンジとは、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を実現するため、自らが主体となって未来に向けて行動を起こしている、または行動を起こそうとしているチームの活動です。当社は廃棄衣料を蘇らせるチャレンジとして関係各所の皆様とチーム「commpost(コンポスト)」の活動を登録いたしました。また、共創パートナーは、「TEAM EXPO 2025」プログラムに賛同し、主体的かつ継続的に本プログラムに合った独自の活動を展開し、多様な共創チャレンジの創出・支援を担う法人・団体です。当社はアパレル企業がもつ力を最大限に生かし、コラボレーションによる新たな価値創造と地域社会への貢献を目指すため、「コラボレーション&プロデュースプロジェクト」を立ち上げました。独自の視点から課題を発掘し、アパレル企業の強みを生かしたコラボレーション&プロデュース事業を推進いたします。



## PARK JAM EXPO'90 30TH Anniversary への参加(2020/11)

「国際花と緑の博覧会」開催の30周年記念イベントは、「PARK JAM EXPO'90 30TH Anniversary」として新たな公園の使い方や楽しみ方を市民と共有し、共に考えていく場として花博記念公園鶴見緑地にて2020年11月21日(土)～22日(日)に開催されました。

当社は、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会様のブース内にて、廃棄衣料を原料とした「commpost」の生地を使用したサコッシュ作りのワークショップを実施いたしました。また、同ブース内にて、JICA 関西 SDGs プラットフォーム事務局様による SDGs に関するパネル展示と共に、commpost における取り組みのパネル展示も行いました。

2025年の日本国際博覧会「大阪・関西万博」は、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、持続可能な開発目標(SDGs)達成への貢献を目的の一つに掲げています。



### 障害者のインクルージョン推進に取り組む世界的な活動 「The Valuable 500」への加盟について (2020/9)

株式会社アーバンリサーチは2020年9月16日、障害者の社会参加を推進する国際的な活動である「The Valuable 500」に加盟し、以下のコミットメントを公表いたしました。

株式会社アーバンリサーチでは、企業理念の「スタッフの個性を大切にする」とあるように、障害の有無に関わらず従業員全ての生活や幸せが最優先であると考えています。まだ改善すべき課題は多いですが、会社のすべての人々に尊敬の念と帰属意識を持ってもらう為にも、私たちは互いの違いを受け入れることが最高の人々を引き付け、定着させ、より良い未来のための革新に導くという信念に基づいて、インクルージョンを優先し続けています。

障害インクルージョンに対する当社の取り組みには、次のようなものがあります。

- ・作業環境へのアクセスの確保。
- ・それぞれのタスクを完了するための支援技術または装置の導入。
- ・ワークフローを見直し、必要に応じて細分化し、効率的に仕事ができるようサポート。
- ・特性に応じてパーソナライズされた仕事のハンドブックを作る支援。
- ・ニューロダイバーシティな人材を引き続き採用し、社会的企業パートナーと協力する。
- ・包括的で偏見のない環境を作るために、すべての人々に教育を提供する。

第75回国連総会にて、加盟に伴う弊社代表のコメントを発表しました ▶



#### The Valuable 500

2019年1月に開催された世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）において、『インクルーシブ\*なビジネスはインクルーシブ\*な社会を創る』という考えのもと、社会起業家のキャロライン・ケーシー氏により立ち上げられた活動です。これは、障害者が社会、経済にもたらす潜在的な価値を発揮できるような社会づくりを推進することを目的としており、障害者のインクルージョン\*を先進的に進めている企業とこれから取り組みを進めようとしている企業500社の賛同を得ることを目指しています。

\* インクルージョン、インクルーシブ：

従業員一人ひとりの違いや価値を認め、それぞれの経験や能力、考え方を生かすことのできる環境を提供する意。

# 2

## SDGs 基本方針「3C」紹介

20  
SDGs  
20  
report

株式会社アーバンリサーチはアパレル企業という視点から、  
SDGsに対して企業風土を活かしたアプローチをするため「3C」という  
SDGs 基本方針を定めました。

---



Move forward in our ways to SDGs  
by URBAN RESEARCH Co.,Ltd.



Clothing Innovation



Clean Earth



Community Building

株式会社アーバンリサーチは、国際社会の一員として、積極的にSDGsを支援します。  
中でも頭文字が「C」から始まる次の3つのテーマを中心に、アパレル企業視点で  
個性を活かした取り組みを推進します。

## 1. SDGs 基本方針「3C」紹介



Clothing Innovation

関連する主な  
SDGsの目標

### 1. Clothing Innovation / 衣料資源の有効活用

取り組み内容

- 1-1. サステイナブル素材の活用
- 1-2. 生産量の適正化
- 1-3. アップサイクルの推進



Clean Earth

関連する主な  
SDGsの目標

### 2. Clean Earth / 地球環境負荷の軽減

取り組み内容

- 2-1. 従業員の環境に対する意識向上
- 2-2. 環境問題に関するお客様との価値共感
- 2-3. 環境にやさしいオフィスづくり



Community Building

関連する主な  
SDGsの目標

### 3. Community Building / コミュニティの形成

取り組み内容

- 3-1. 地域の技術や特産品を活かしたモノづくり
- 3-2. 異業種や自治体・NPOなど多様なビジネスパートナーシップ
- 3-3. 人々が集まり価値を共有できる場所づくり



# 3

## 3Cの主な活動事例

20  
SDGs  
20  
report

### 3. 3Cの主な活動事例

## 1. Clothing Innovation ／ 衣料資源の有効活用



### Clothing Innovation

1. サステイナブル素材の活用
2. 生産量の適正化
3. アップサイクルの推進

### 3. 3Cの主な活動事例

## Green Down Project

2015年よりグリーンダウンプロジェクトの一員として、羽毛製品の回収とリサイクルダウンの商品企画に積極的に取り組み、羽毛循環サイクル社会に貢献しています。

羽毛は洗浄、精製加工することで“100年循環できる資源”とも言われています。立ち上げ当初の羽毛製品回収ボックス設置店舗数はURBAN RESEARCH DOORSの約40店舗でしたが、2021年1月末時点では9ブランド164店舗にて回収、内82店舗にてボックスを設置し、継続的にお客様へ回収協力を呼びかけています。

さらに、回収後に洗浄、精製加工された羽毛(=グリーンダウン)を使用したダウン製品の製造販売も積極的に進めています。



## 生産量適正化に向けた取り組み

生産量を適正化するには様々なアプローチがありますが、基本的には販売を予測し、その予測に基づき生産・販売を行うことで在庫を残さないことが重要です。そのため、当社ではMD(マーチャンダイザー)とDB(ディストリビューター)を中心に、最先端の業務知識の習得や、現状の課題に対する適切な解決策の実施、ブランド間の業務標準化などを進めています。また、最新のマーケティングデータやIT技術活用などにより、新たなアプローチを模索するなど、様々な方法で生産量の適正化を図っています。



## commpost

「commpost(コンポスト)」は、共有、共同、常識、良識を意味する「common (sense)」と郵便・提示する・標柱を意味する「post」を組み合わせた造語で、これからの地球環境や人のはたらき方・暮らし方に対して、新しい常識を示していきたい、そんな想いから誕生したサステナブルマテリアル・プロダクトブランドです。

自社倉庫で廃棄される予定だった衣料品(販売不可能な不良品や汚損品)について、Colour Recycle Network様の“繊維を色で分けて付加価値のある素材にアップサイクルする”というカラーリサイクルシステムと大阪・箕面市で住民主体のまちづくりをされているNPO法人暮らしづくりネットワーク北芝様、また株式会社URテラスによる縫製等の作業支援を受け、協働によるものづくりを継続しています。

2018年11月に第一弾商品を発売以降、様々なプロダクトを生み出しており、2019年には第7回環境省グッドライフアワード 実行委員会特別賞「環境と福祉賞」を受賞。2020年度は株式会社オルタナが主催する「サステナブル セレクション」にて一ツ星及び二ツ星に認定していただきました。





## 2. Clean Earth / 地球環境負荷の軽減



### Clean Earth

1. 従業員の環境に対する意識向上
2. 環境問題に関するお客様との価値共感
3. 環境にやさしいオフィスづくり

### 3. 3Cの主な活動事例

#### SDR(エス・ディー・アール)の活動

SDGs関連事業を全社一丸となって推進していくため、2018年11月にSDR(Sustainable Development Research)というプロジェクトチームを発足しました。2020年度も昨年に引き続き15名を超えるメンバーで毎週1時間半程のミーティングを実施しています。メンバーは経営企画、生産管理、バイヤー、商品企画、販売促進、人事、内部監査など部門横断で構成されており、サステイナブル関連の情報交換や進行中のプロジェクトの進捗共有と各種企画立案を行っています。

#### 「GREEN POINT」サービス

株式会社アーバンリサーチの会員サービス UR CLUBの会員様はマイバッグをご持参、またはショッピングバッグをお断りいただくと「GREEN POINT」として10ポイントを差し上げております。アーバンリサーチスタッフにおいても、ショッピングの際はマイバッグ持参を推奨しています。



#### サステイナブルな店舗づくり

2020年2月12日、株式会社ファミリーマートとフランチャイズ契約を締結し、コラボレーション店舗として「アーバン・ファミマ!! 虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー店」がオープンしました。

当店では、店内什器などに再生、再利用素材を使うなど、環境に配慮した素材を採用しています。例えば、余分な湿気を吸収する卵の殻を再利用したエッグウォール(壁紙)やエッグペイント(塗料)、火力発電所で発生する石炭灰の他、使用済みのコーヒー豆など多岐にわたる廃棄物を利用したりサイクル内装ボードなど、全体の70%にサステイナビリティな要素(仕上げ・什器)を取り入れ、環境に配慮した店舗デザインとなっております。

さらに、こちらの店舗は同年10月に、2020年度グッドデザイン賞を受賞しました。



#### アーバン・ファミマ!!

##### 執行役員

##### 萩原 直樹

2020年度は、スタッフの社会・環境問題に対する意識を高める活動に力を入れたこともあり、SDGs基本方針「3C」がより社内に浸透しました。また、対外的にも弊社の活動の認知度が高まり、沢山のお声がけをいただきました。こうした中で、私たちのできることとして、サステイナブル商品の展開、新業態の開発、各種団体加盟などを行いました。

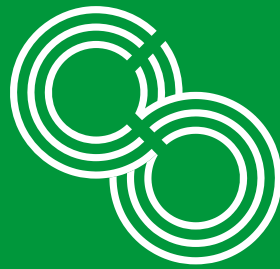
今年度は新型コロナウイルスの影響でイベントが中止となるなど、思いどおりに活動できない部分もありましたが、社内SDRメンバーが中心となり、必死にSDGs支援活動を支えてもらいました。これによって社内活動の深みが更に増し、また、弊社の取り組みにご賛同いただけるお客様も増えてきたように感じます。

2021年度は、更に社内体制を強化し、全社一丸となってSDGsを推進して参ります。今後とも、弊社のSDGs支援活動へのご理解、ご支援を賜れば幸いです。



##### message

### 3. Community Building／コミュニティの形成



#### Community Building

1. 地域の技術や特産品を活かしたモノづくり
2. 異業種や自治体・NPOなど多様なビジネスパートナーシップ
3. 人々が集まり価値を共有できる場所づくり

### 3. 3Cの主な活動事例

## JAPAN MADE PROJECT

地域活性化をメインタスクとして、日本各地の企業やクリエイターによって作られるローカルコミュニティとともにその土地の魅力を再考し発信していくプロジェクト。

これまでの協業地域には長崎・石川・東北・熊本・京都がありますが、長崎県との取り組みでは「長崎在住の人材と協業した長崎の魅力を伝える新しい商品の開発による地域経済の活性化」と、「全国販売による長崎の魅力発信」の2点を評価していただき、長崎市が推進する「長崎創生プロジェクト事業認定制度」に2018年12月、アパレル企業として初めて認定して頂きました。

さらに、2020年3月には新たに「東京」での取り組みが開始しました。「余白のある暮らし」をテーマに、杉並区高円寺の老舗銭湯「小杉湯」とコラボレーションし、銭湯を起点とした街の回遊が叶うアパレルと入浴雑貨を提案しています。(p.17に詳細記載)

JAPAN MADE  
URBAN RESEARCH

## TINY GARDEN 蓼科

株式会社アーバンリサーチの宿泊滞在型施設「TINY GARDEN 蓼科」。長野県茅野市内、蓼科湖畔にキャンプ・ロッジ・キャビンの3タイプからなる客室と温泉やカフェ、ショップなどが併設した滞在型の宿泊施設を構え、アウトドアとともにあるライフスタイルを発信しています。

2019年のオープン当初より、地元の食材を使った料理の提供や特産品の販売、さらにサテライトオフィスの運営によって新たなパートナーシップの誕生や人と人が価値を共感出来るための機会づくりを推進しています。

TINY GARDEN 蓼科(タイニーガーデン タテシナ)

長野県茅野市北山 8606-1(蓼科湖畔)

TEL: 0266-67-2234 / E-mail: contact-tinygarden@urban-research.com



## 株式会社 UR テラス

障がい者雇用の推進と拡大を目指し設立された株式会社アーバンリサーチの子会社「UR テラス」。業務は本社からの委託事業である事務代行やWEBサイトの更新などを行っていますが、店舗で実際に販売する製品の企画や製造など、一般的な障がい者向け子会社にはない、アパレル会社ならではの業務も行っています。





## 2020年度の活動

**20**  
SDGs  
**20**  
report

## JAPAN MADE PROJECT “TOKYO”

### 高円寺の老舗銭湯「小杉湯」との協業により『URBAN SENTO』を立ち上げ(2020/3)

古くから日本人の重要な生活文化の一つであり、多様な人が集うコミュニティの場である「銭湯」。

私たちは、都市における暮らしのあり方を、東京都杉並区高円寺の銭湯「小杉湯」を中心としたコミュニティとともに見つめ直し、銭湯の可能性に着目したプロジェクト『URBAN SENTO』を立ち上げました。

テーマは「余白のある暮らし」。

街のお風呂屋として公衆衛生の役割だけでなく、地域住民の精神的な衛生とコミュニティ形成に貢献している銭湯は、せわしなく日々が過ぎる東京に暮らす人々の心身を整え「余白」を与えてくれます。本プロジェクトでは、そういった「余白」を体現するために、現代を生きる人に向けたライフスタイルとして「銭湯のある暮らし」を提案しています。

商品アイテムは、銭湯を起点とし、街の回遊がその一着で叶うようなアパレルの展開を中心に、入浴シーンに欠かせない雑貨類を取り揃えました。



こちらのQRコードより  
コンセプトムービーをご覧ください ▶



商品詳細はこちら ▶

第一弾商品



第二弾商品



## JAPAN MADE PROJECT “TOHOKU”

### 漁業の新たな担い手育成を支援(2020/7)

2015年より漁業をカッコよくをコンセプトに集まった東北の若手漁師集団「FISHERMAN JAPAN」に参画し、共同企画を実施しています。

2016年には業界初となる漁の現場で着用する「漁師ウェア」をはじめ様々なプロダクトを製造し商品化しました。当社はコラボ商品の年間売上3%を、未来の漁師を育成するための活動基金としてFISHERMAN JAPANへ寄付しています。また、漁師担い手育成プロジェクト「TRITON PROJECT」を支援しており、2020年より新しく漁業の担い手となった皆様に、コラボ漁師ウェアの贈呈を続けております。

【贈呈実績】2020年度15着(2018年度7名分、2019年度5名分、2020年度9名分)



### message

#### URBAN RESEARCH ブランド PR 兼 経営企画部 サステナビリティ推進課 宮 啓明

ライフスタイルの変化にともない「地方」の価値が見直された2020年。

その点において、アーバンリサーチとしても、そしてJAPAN MADE PROJECTとしても地域やコミュニティとの関わり方を改めて考えるきっかけになりました。

3月にスタートした東京・高円寺の銭湯「小杉湯」との取り組みは、ただの銭湯コラボではなく、日々の中に「余白」を生み出す「銭湯のある暮らし」を提案するという企画。この企画は、コロナウィルスの流行前から進めていましたが、これからの時代にこそ提案していきたい企画になったと思います。2021年は、現在、協業している各地域との取り組みをさらに強化し、魅力ある企画を増やしていきたいと思います。



### Re:hanger

#### 不要なハンガーのアップサイクルプロジェクト「Re:hanger」を開始 (2020/3)

店舗での役目を終えた木製ハンガー。  
自社の物流倉庫に数多く眠る状況を課題視し、長野県諏訪市で古材と古道具を販売する「ReBuilding Center JAPAN (リビルディングセンタージャパン)」様と協業し、靴べらと、塗装を削り落とし無垢の木のハンガーとして姿を変え、2020年3月より販売開始しました。  
ハンガーを使用する企業の責任として、今後も不要なハンガーを“レスキュー”し、新たな役割と価値を与え、木材という資源を繋いでいきたいと考えています。



concept movie



### Rewrites URBAN RESEARCH

#### 衣服のデザイン・生地・背景を書き換える リメイク企画として誕生 (2020/3)

URBAN RESEARCHのデッドストック衣料をリメイクするレーベル「Rewrites URBAN RESEARCH (リライツ アーバンリサーチ)」は、大阪発のリメイクに特化したブランド「ink (インク)」と、こちらも大阪発のアパレルエンターテインメント集団「THE UNION (ザ ユニオン)」の雑貨ライン「THE COLOR (ザ カラー)」を手掛ける西村氏に協力を依頼し、実現したレーベルです。  
衣服としての任務“着られること”が叶わず、過去に取り残された衣料達の、デザイン、生地、背景を書き換える (Rewrite) ことにより、新たに衣服としての任務を全うさせます。



詳細はこちら



## ORGANIC COTTON SHOP BAG

#### お客様へマイバッグ持参を呼びかけ (2020/3)

SENSE OF PLACE by URBAN RESEARCH 及び、URBAN RESEARCH DOORSは、持続可能な世界を実現するための開発目標 (SDGs) の取組の一環として、オーガニックコットン製ショッパッグを作製。お買い物の際のマイバッグ持参を呼びかけ、販売しております。

商品詳細はこちら ▶



### message

#### SENSE OF PLACE by URBAN RESEARCH ブランドディレクター 阿部 直宏



SENSE OF PLACE by URBAN RESEARCH では「SAVE OUR PLANET」というブランド独自のプロジェクトを通してSDGsの取り組みを進めております。ブランドでは年間約75t (2019年度 概算量)消費されるショッパッグの使用を 50% 削減を目標とし、使用する資源や廃棄ゴミの削減に向けて、お買い物の際は是非お持ち帰り用のマイバッグ持参を推進いたします。

#### URBAN RESEARCH DOORS ブランドPR 大家 孝文



URBAN RESEARCH DOORSでは、従来よりエコバッグやショッパッグの販売なども行なって参りましたが、こちらはお買い求めやすく日常使いからお買い物の際まで気軽に使っていただきやすいものとなっております。店舗では簡易包装なども推進しておりますが、使用する資源や廃棄ゴミの削減に向けて、お持ち帰り用のマイバッグ持参を推進いたします。



### SENSE OF PLACE / SAVE OUR PLANET

#### オーストラリア チャリティ Tシャツを販売 (2020/5)

2019年9月から240日以上続いたオーストラリアの大規模な森林火災。  
日本の3分の1の面積が焼失し、哺乳類はじめ12億以上の生命が失われたと推定されています。  
被害が甚大だった地域の動物たちの救護・環境の回復等を直接支援するため、オーストラリア最大の野生生物保護団体「WIRES」へチャリティTシャツの収益を全額寄付いたしました。  
この度、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

商品詳細はこちら ▶



#### SAVE OUR PLANETについて

SENSE OF PLACE by URBAN RESEARCH ではSAVE OUR PLANETのプロジェクトを通じサステイナブル(持続可能)で自然・動物・ヒト、その他地球に在る全てのものへの負担を低減させるきっかけとなる活動に取り組んでいます。

[2020年度 寄付額 / ¥779,557]

※本商品の販売・収益の全額寄付は継続して行います。



### THE GOODLAND MARKET

#### サステナビリティと感性を追求した

#### 新業態「THE GOODLAND MARKET」をローンチ (2020/6)

『いまのそれではなく、まだ見ぬそれを共創するマーケット』というコンセプトのもと、サステナビリティと感性を追求した新しいプラットフォームストアを目指した異種複合型の新業態「THE GOODLAND MARKET (ザ グッドランド マーケット)」がローンチしました。

「会社規模の拡大、事業部や予算の細分化などの成長の中で、見過ごしていたり拾いきれない価値観やリソースが眠っているのでは」という疑問から、次世代を見据えたバリュー(=新大陸)を追い求める航海のように、スモールビジネスユニットとして発足。自社オンラインストアを中心に展開しています。

第一弾目は、会社規模の成長や在庫管理のシステム化などで見過ごされ眠っている価値やリソースを活用しました。社内のデッドストック衣料の中から、担当デザイナーがピックアップした商品を、取引先メーカーと共に国内生産背景でリメイクし再構築した商品と、過去に買い付けた USED の什器類や家具類などを販売しています。





## 4. 2020年度の活動



### THE GOODLAND MARKET POP UP STORE

- ・2020年8月21日(金)～9月3日(木) DOORS HOUSEにて
- ・2020年11月13日(金)～11月24日(火) URBAN RESEARCH KYOTOにて

テンジン・ワイルド氏とTAO氏が手がけるアメリカ初ブランド  
「ABODE OF SNOW (アボード オブ スノー)」ファーストコレクションをゲリラ展示

同イベントの開催を記念し、THE GOODLAND MARKET がそのコンセプトに共感した、アメリカ発ブランド「ABODE OF SNOW」のファーストコレクションをゲリラ展示いたしました。さらに「THE GOODLAND FRIENDS TALK SESSION」と題して「ABODE OF SNOW」のクリエイティブディレクターであるテンジン・ワイルド氏と、共同ディレクターで、ハリウッドをベースに国内外で役者として活躍するTAO氏をゲストにお招きし、ABODE OF SNOWのビジョンと、それぞれの視点から持続可能な社会・世界・地球であるために私たちができる事は何なのかのトークセッションを行い、スペシャルムービーとして公開いたしました。同ブランドとして、ファーストコレクションのお披露目、コンセプトや考えを語っていただいたメディアは日本初となりました。



### message

事業本部 SBU部 部長代行  
新山 浩児



こちらのQRコードより、  
トークセッションのムービーを  
ご覧いただけます ▶



2020年の6月に立ち上がってから、まず第一ステージとして、倉庫にsleeping stockとして滞留してしまっていた店舗什器や不良品・サンプル品などの衣類などをメインのリソースとして活用し、コロナ禍でなかなか想定していたように動くことが難しい中、コンスタントに売上に繋がるような流れは作れたと思います。2021年は次のステージとして、企業様や個人のクリエイター様との繋がりを強め、その輪を広げていくことで、コンテンツを増やし、新しいビジネススタイル、プラットフォームとしての展開を広げていく予定です。

## TINY GARDEN 蓼科

ビールを通して地域の魅力を打ち出す  
新作クラフトビール「GARDEN ALE」を発売 (2020/8)

株式会社アーバンリサーチの宿泊滞在型施設「TINY GARDEN 蓼科」より長野県茅野市のビール醸造家と地元ビール愛好家のコミュニティから生まれたクラフトビール「GARDEN ALE」が発売されました。株式会社エイトピークスと地元ビール愛好家および茅野市内の飲食店、ゴルフ場関係者などの総勢30名が集い、商品開発にあたって議論を重ねて完成しました。「ビールのある生活を、地域とともに」をキーワードに、地域内外の広いお客様にこの土地の魅力を伝えていくことを目指しています。



## Green Down Project Design Competition

# GREEN DOWN PRODUCT DESIGN COMPETITION

produced by  
URBAN RESEARCH Co.,Ltd.

「グリーンダウン」を使用した製品のデザインコンペティションを実施。  
次世代のアパレル産業を担う学生の環境に対する意識のきっかけに。

### 第二回学生デザインコンペティション最優秀作品を商品化(2020/10)

2019年より開催している学生を対象にした「グリーンダウン」を使用した製品のデザインコンペティションです。第二回開催の最優秀賞作品は商品化され、一部店舗にて販売開始いたしました。次世代のアパレル産業を担う学生へ、羽毛の有限性はもちろん、世界規模で実際に起こっている環境問題などに関心をもつきっかけとなって欲しいという想いで実施しています。



Green Down Project  
公式WEBサイト

受賞者インタビューはこちら ▶



商品詳細はこちら ▶



## 4. 2020年度の活動

### TO BLACKWEAR

#### 衣類の黒染めサービスをスタート (2020/10)

京都紋付様の黒染めによる REWEAR プロジェクト「K」と協業し、衣料品の染め替えプロジェクト「TO BLACKWEAR」を2020年10月にリリースしました。

京都紋付様の100年以上にも渡り培われた黒染めの技術を用いて、汚れなどの理由で着ることができなくなった皆様の衣類を染めることで、思い出の詰まった衣類をより長く着ていただくことを提案しています。アパレル企業の責任として、廃棄衣料の問題に取り組み、本プロジェクトを通して廃棄される衣類の削減に貢献したいと考えています。



TO BLACKWEAR

### compost

#### 新商品「Tissue BOX」をリリースしました (2020/9)

compostから「Tissue BOX」が新たに誕生しました。何度も試作品作りを重ね、多様なティッシュケースに対応出来るよう、サイズ感にこだわりました。生地のカットから縫製～仕上げまでを株式会社 UR テラスに生産委託し、MULTIPURPOSE BAGと同様、1点1点手作業で生産している為、温かみのある商品に仕上がっています。



商品詳細はこちら ▶



#### URBAN RESEARCH DOORS 南船場店に compost オープンスペースが OPEN! (2020/9)

URBAN RESEARCH DOORS の旗艦店である南船場店がリニューアルし、compost の世界観を伝える場として、同ブランド製品の生産を行う空間を来店者が直接見学できるオープンスペースが誕生しました。廃棄衣料がアップサイクルされ、循環型のプロダクトに生まれ変わる過程をパネル展示とともにご覧いただけるようになりました。



#### compost シートの販売開始と オリジナルアイテムのワークショップを常時開催 (2020/9)

URBAN RESEARCH DOORS 南船場店にてcompost のシート販売を開始しました。またオリジナルサコッシュ・ガス缶カバーをつくるワークショップも常時受け付けを開始し、ご来店時にお好きなカラーを選んでいただき、オリジナルのアイテムを作成できるコンテンツをご用意しました。



## 4. 2020年度の活動

### 生活協同組合コープこうべ

#### 新たなパートナー「生活協同組合コープこうべ」との協業 (2020/11)

生活協同組合コープこうべ様が運営する、阪急電鉄 西宮北口駅駅前「コープ北口食彩館」にて、2020年11月より株式会社アーバンリサーチの一部商品の取り扱いが開始いたしました。本企画は、両社が羽毛循環サイクル社会を推進する「Green Down Project」の会員企業であることから始まった新たな取り組みとなります。

グリーンダウンを使用したダウンジャケットを中心とし、廃棄衣料をアップサイクルしたサステイナブルマテリアル・プロダクトブランド「commpost」もフルラインナップで展開。さらに「SAVE OUR PLANET」からニットなどのトップスを取り揃えました。



### SDGsに関する取組の講演

#### 吹田東高等学校でのSDGsに関する取組の講演 (2021/1)

現在吹田東高等学校では、授業の一環でSDGsについての授業を行っており、株式会社アーバンリサーチとして講演にお呼びいただきました。

「今日、世界共通の課題となっているSDGsについての様々な取り組みを学び、自らの進路を考える上で、何ができるかを考える機会にする」ことを目的として、大阪府立吹田東高等学校2年生計320名を対象に、「commpost」の取り組みを中心としたSDGsに関する講演を行いました。



message

デジタル事業本部 デジタル営業部  
プレス課 カンパニープロモーションチーム  
兼 経営企画部 サステイナビリティ推進課  
柳堀 佑太



授業の一環で学生の方々がSDGsについて考える機会に、一企業として携われたことは非常に光栄です。今回コロナ禍ということもありリモートでの講演になってしまったのですが、学生の方々が真剣に話を聞いて下さっていました。学生の方を対象にSDGsについての講演を行うことは初めてでしたが、SDGsの取り組みについて知っていただくだけでなく、自分自身も講演の準備をする中で、改めて社内の取り組みに対して振り返る良い機会となりました。

またこのような機会をいただける様であれば、今後も行っていけたらと思います。

最後になりますが、この度お声がけいただきました吹田東高等学校の皆様ありがとうございました。



## 社内の動き

**20**  
SDGs  
**20**  
report



## 5. 社内の動き

### 3C ECO BAG

#### 社内レンタルエコバッグ「3C エコバッグ」の推進(2020/3)

「3Cエコバッグ」とは、不要になったトートバッグを全社で回収し、株式会社URテラスの協力のもと「3C」とあしらった布をバッグに縫い付けた当社オリジナルのレンタルエコバッグです。

この取り組みは、SDRメンバーから生まれたアイデアで、環境配慮の意識を高めつつ「3C」の浸透を目的としています。

2020年3月より大阪本社、東京支社、WEB北堀江スタジオの各フロアエレベーター前などに設置を開始し、お昼どきにコンビニへ行く際や、業務で移動を伴う際など、さまざまなシーンにあわせて利用できる環境を整えました。

大変好評で、一部店舗でも導入がスタートしています。



不要トートバッグ  
を活用!



#### message

事業本部 SBU部

下間 祥子

今回も社内の皆様やURテラスの方のご協力で追加分の3Cバッグを完成させることができ、呼びかけた時に一丸となり協力し合えるところ、そのパワーは本当にアーバンリサーチの素敵なお仲間だと改めて感じました。

3Cバッグ完成までのプロセスのように一人一人の小さなアクションが素敵な未来に繋がると思うので、引き続き3Cバッグのご愛顧を願っております。



### SDGs 社内報「SDR 通信」

#### 社内報「SDR 通信」の配信を開始(2020/6)

SDGsやSDR(3C)の周知及び社内スタッフのリテラシー向上を目的とし、社内報「SDR 通信」の配信を6月より開始しました。

隔週で社内外の最新のSDGs情報などを記事化し、2020年度で全16回を配信。様々な部署のスタッフが執筆活動に参加し、社内のあらゆる角度から情報発信しています。

また、本来なら一般のお客様へはお見せすることのない社内報ですが、皆様に広く知っていただきたい内容に関しては「SDR 通信 Plus」として、当社のオウンドメディア「URBAN RESEARCH MEDIA」上で11月より不定期連載を開始いたしました。



こちらのQRコードより  
「SDR 通信 Plus」を  
ご覧いただけます ▶



### 廃棄在庫の社内販売会

#### 廃棄予定の在庫削減のため社内販売会を実施(2020/9)

廃棄衣類の多くは「commpost」として生まれ変わります。しかし、素材上の問題でリサイクルできない商品もあります。そこで、廃棄商品をさらに少なくする為に、2020年9月16日(水)～17日(木)の2日間で大阪本社にて廃棄予定在庫の社内販売を行いました。



#### message

内部監査室  
関 徳子

2日間の開催では沢山の方にお越しいただきました。  
商品のどの部分が不良品なのかを説明をすると、「まだ使えそう」「売れ残ったら廃棄になるんですね」と納得して購入して下さる方が多かったです。また、廃棄商品について聞いて下さる方もおり、販売している商品に対して勿体ない商品ばかりだと関心を寄せてくれる方が多いように感じました。関心を持ってもらい、今まで無意識だったことを、意識・認識してもらうことを目的にしていたので開催をして良かったです。商品の製造・販売をするうえでどうしてもB品は出てしまうものですが、廃棄商品を減らすことはもちろん、例えば「少しでもB品を減らす方法はないか」「販売方法で工夫できることはないか」など、今後参加いただいた方と共に考えていければと思います。



### LAKE SEEKER'S

#### シェアクラブよりフィッシンググループ 「LAKE SEEKER'S」が誕生(2020/9)

株式会社アーバンリサーチでは、シェアクラブ制度を導入しています。  
シェアクラブとは、社員の趣味、特技、興味のあることを通じて創る「すごいをシェアする」コミュニティであり、資金や活動場所等を提供することで、スタッフのやりたいことを実現していく取り組みです。

2020年度に発足した「LAKE SEEKER'S」では、このシェアクラブ制度を利用し、釣り人のファッションを変え、より幅広い層へとフィッシングライフを提案するため、業務の一環としてフィッシング活動を実施しながら、釣り人に向けた商品制作にも取り組んでいます。  
当社では、社員から生まれる「すごい」や、そこから生まれる「コミュニティ形成」を大切にすることで、新たなムーブメントが誕生することを期待しています。

#### 「LAKE SEEKER'S」

アーバンリサーチ社内の釣り同好会から発展する形で、2020年に発足。「世の中の釣り人のファッションを変えたい」をスローガンに、釣り具メーカーとの共同アパレル開発やフィッシングイベントへのゲスト出演、プロスタッフとのプライベート釣行などを通して、より広い層へ豊かなフィッシングライフを提案。最新情報は主に公式YouTubeチャンネルとInstagramで発信中。

#### LAKE SEEKER'S



YouTube ▶



Instagram ▶



### Terrace Kitchen

#### 株式会社 UR テラスの新たな取り組み「Terrace Kitchen」(2020/11)

株式会社 UR テラスで働くスタッフに、おいしい、あたたかいご飯を食べてもらいたい。そんな気持ちから、福利厚生の一環として炊き立てのお米と汁物を無料で振る舞う「Terrace Kitchen」をオープンしました。



#### message

株式会社 UR テラス  
代表取締役社長

萩原 佳子



「Terrace kitchen 始めました」

医食同源とはよく言ったもので、日頃口にする物によって体調を整える事が出来る。

私達はそう考え、こんな時代だからこそ「エシカルな食」に着目し月2回ですが減農薬で作られた米を農家から分けて貰い、炊き立てのご飯を昼食時に振舞うようにしました。そもそも company の語源の一つはラテン語の“com pan y”=「食を共にする仲間」という事だそうです。スタッフの評判は上々で、仕事への意欲も湧き、今後の発展に期待が持てます。

### 再生エネルギーの採用

#### 一部自社倉庫・店舗にて再生エネルギー「みんな電力」の導入を決定 (2021/1)

TINY GARDEN 蓼科では2019年より、使用する電力の生産者や産地を知ることができる「みんな電力」の導入を開始しています。また、一部自社倉庫と「URBAN RESEARCH DOORS 南船場店」「URBAN RESEARCH warehouse 東大阪店」において、みんな電力の再生エネルギーを採用していくことが2020年度に決定し、2021年2月より導入を開始いたします。

みんな電力



最後に ...

2020年度は、これまで企画準備していた  
数々のイベントが、新型コロナウイルスの影響で中止や  
延期となってしまいました。  
ですが、この1年は今私たちができること、しなければならないことを  
これまで以上に真剣に向き合った1年であったと思います。

来年度は、十分な安全を確保した上で、  
様々な取り組みに挑戦していきたいと考えています。

引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

---

## Next year's move...

2021年度より、お客様の不要な自社衣料品の  
回収を開始することが決定いたしました。

回収した衣料品は主に、廃棄衣料をアップサイクルする  
サステイナブル・プロダクトブランド「compost」の原料として再利用し、  
新たな商品として販売予定となります。

また、お客様からの衣料品の回収と並行して、  
洋服の製造段階において、初期不良等の理由でこれまで返品され、  
廃棄されていた商品の回収・リサイクルも進めていき、  
廃棄衣料の削減を目指すとともに、資源の循環利用に取り組めます。



## About us

—

名称

株式会社アーバンリサーチ

本社住所

大阪府大阪市西区京町堀1丁目6-4 アーバンリサーチビル 10F

設立

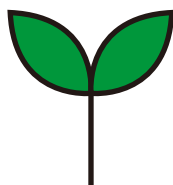
1989年11月8日

資本金

1,000万円

事業内容

メンズ・レディースウェアなどの企画・販売・製造及び付随業務



# 20 SDGs 20 report

発行日 2021年6月17日

問合せ先 株式会社アーバンリサーチ 経営企画部 サステナビリティ推進課

[info-sustainability@urban-research.com](mailto:info-sustainability@urban-research.com)